

グローバル教養海外実践（ラオス）に参加して

GLEP 工学部 1回 永野幹大

私は今回のラオスが初の海外経験でした。学校のプログラムなので個人的には行きにくいところに行きたいと思い、ラオスでは先進国と途上国の差を体感できたらいいなと思って参加しました。幸か不幸か、自分の生活を変えられるほどのカルチャーショックに出会うことはなかったのですが、研修を通して思い知ったことは、人の性格や行動は周りの環境によって変わるということです。このように思ったのは、特にラオスの子と触れ合った経験と自分自身のことの2点からです。

ラオスの子供たち（小学生ぐらい）は、日本の子と比べると自由でした。小学校に売店があるため好きな時にご飯が食べられるしチャイムは先生による手動なのでアバウトです。この自由は先生がルーズである（休み時間に授業準備ではなく飯食べていた）ことも要因であるように感じられ、教育制度がきっちりしてない様子がわかりました。しかしながら、それゆえのゆっくりした性格には憧れました。

ラオスの子供と一括りにしましたが、区別するなら研修では3種の子と会いました。都市に住む子、少数民族内の子、そして聾学校の子です。同国内でも差は大きく感じました。特に楽しみ方が違うことを遊び方の違いから感じました。少数民族の子たちは、私たちが提供したおもちゃで遊ぶのみならず追いかけあいやくすぐりあいをして楽しんでおり、私が飽きてきた頃でも全力で楽しんでいました。聾学校の子は遊び方が上手で、例えばフラフープを渡せばおなか周りだけでなく足や手や首で回したり転がしてくぐったりしていました。一方都市の子はおかしに夢中であったり休み時間に勉強している子さえいたりしました。これらの違いもまた、生活環境の充足状態によって変わっていて幸せの次元が違っているのだと思いました。

ラオスに一週間しかいなかった私自身にも変わったと思うことがありました。時間感覚です。それに気づいたのは移動時間です。一部の村や少数民族は住んでいた中心部から離れており数時間の移動が普通でした。その時間は日本では長旅で、聞いた瞬間退屈に感じるものであったはずですが特に退屈していない自分がいました。それもスマホやゲームができない状況であるのに。今思えばラオス内で疑問に思ったことを聞いたり、民族間の差の話を聞いたりしていたからかもしれないのですが、のんびりとした穏やかな人に囲まれれば自然とおっとりするものだと思います。何もすることがない時間は、暇な無駄なものではなく、ゆっくりボーっとできる幸せな時間だなと思えました。

ラオス研修を通して上記のこと以外にも、英語からラオ語の通訳さんを活用するにはまず自分の日本語から英語にする精度を上げないといけないことや中国の進出が激しいこと、子供の癒しは最強であることなどを学びました。日本と他国との違いを知ることで自分のことを知れたので、次はさらに日本との違いが感じられそうなアフリカ訪問や、中国やアメリカの大学生との英語での交流に挑戦したいです。